

	重点目標	項目	自己評価	成果・課題及び改善策
1	学校の教育目標の意識化とその具現化	学校の教育目標が教育活動全体で具現化され、達成に向けて取り組めたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき、移行措置に応じ、23年度教育課程を見通した指導ができた。 ・具体的な指導の中で学校の教育目標（めざす児童像）を児童に意識させる働きかけがさらに必要である。
		生きる力の育成を目指し、自ら考え、自ら学ぶ児童の育成を図ろうとしたか。	4	
		各領域における指導及び領域外の指導、それぞれに調和のとれた教育活動が展開できたか。	3	
2	学力向上の充実	教師一人一人が授業力向上を目指して、日々研修に励み、児童の学力が向上できたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法改善に努め、児童の学力向上につながった。
3	心の教育の充実	人権教育の推進に努め、思いやりの心を育て、児童一人一人が存在感もてる学級集団づくりができたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育研究指定中学校区事業との関連を図りながら研究を深めることができた。 ・「心の窓委員会」の開催等を通じて、問題の早期発見と共通指導事項の確認ができた。 ・問題が発生した場合に、より児童や保護者の意向をふまえた解決方法を導ける指導体制を確立していくようにする。 ・児童の伝え合う力を高めさせ、道徳の時間における指導の充実を図る。 ・読書活動推進教員のリーダーシップにより読書活動を全教育活動に取り入れることができ、児童の読書意欲が高められた。
		好ましい人間関係醸成のために、共感的な理解に基づく学級づくりができたか。	4	
		いじめ・不登校の指導は、全職員の組織的な取組、指導ができたか。	4	
		道徳の時間の指導は、年間指導計画に沿って、学校教育全体を通して道徳教育を進めたか。	4	
		道徳の時間の指導は、学校教育全体で行う道徳教育の補充、深化、統合となるような指導が展開できたか。	4	
		読書活動の充実を図ることができたか。	4	
4	機能的な家庭・地域との連携活動の推進	地域や学校の実態を生かして教育活動を展開したか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域との連携が深まってきた。 ・あらゆる教育活動において地域との連携を視野に入れ、効果があったが、学習形態や指導方法については、今後も工夫改善を図っていく必要がある。
		多様な学習形態、指導体制、地域の学習資源や人材の活用などの工夫がなされたか。	3	
		家庭からの情報について、真摯に受け止め、連絡を密にして問題の解決にあたったか。	4	
5	特別支援教育の充実	学級における特別な支援を必要とする児童に対して、適切な指導や支援を行うことができたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も適切な支援ができるよう特別支援教育担当と学級担任との共通理解を十分に図る。